

第 2 明日を拓く力みなぎる産業のまち

1 地域の特性をいかした産業の振興

基本施策08	農業の振興	70
基本施策09	林業の振興	72
基本施策10	水産業の振興	74
基本施策11	工業の振興	76
基本施策12	商業の振興	78
基本施策13	企業立地の促進	80
基本施策14	観光の振興	82
基本施策15	雇用・労働環境の整備・充実	84

2 産業基盤の整備促進

基本施策16	新千歳空港の拠点形成強化と周辺環境対策の推進	86
基本施策17	港湾整備とポートセールスの推進	88
基本施策18	苫東開発の推進	90

現況と課題

今日の農業は、農業就業者の高齢化と後継者の不足による農家戸数の減少や遊休地拡大に伴う農地の管理水準の低下など、構造的な問題に直面しています。

本市の農業は、中心となっている畜産農家戸数が減少傾向にある一方で、近年、施設栽培や

法人経営体の参入による活性化が期待される所です。今後、経営の発展に意欲的に取り組んでいく担い手の確保・育成を図りながら、農業経営の安定及び向上に努めるとともに、農地の保全を行っていくことが必要です。

基本目標

担い手の育成・確保に努め、農業経営の安定・向上を目指すとともに、農業生産に必要な農地の確保とその有効活用により、農村環境の保全を図ります。

関連する個別計画

- ・ 苫小牧市農業経営基盤強化促進基本構想

主要施策

1 担い手の育成・確保と農業経営体質の強化【産業経済部】

- (1) 新規就農者や経営継承者と呼ばれる担い手を確保しながら、地域農業の中核となる認定農業者などを育成・確保し、農業経営の安定・向上に資するための必要な支援を行い、農業経営体質の強化を図ります。

2 都市農村交流や地域コミュニティ機能の発揮等による地域資源の維持【産業経済部】

- (1) 都市住民が生産者と交流できる場を活用し、地域の魅力を発信するとともに、農業に対する都市住民の理解を促進していくことを目指します。
- (2) 農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に対し支援を行い、優良農地の確保を図ることで適切な保全管理・利用を推進します。

3 地域資源を活用した新事業や利用促進の推進【産業経済部】

- (1) 生産者及び生産者を含む団体が手がけた農畜水産物などの消費拡大を目指したイベント等を推進します。

主な事業

【産業経済部】

- ・ 農業経営基盤強化資金利子補給金
- ・ 就農者等支援事業
- ・ 農業・畜産・酪農収益力強化対策事業
- ・ 多面的機能支払交付金事業
- ・ 畜産経営改善緊急支援資金利子補給金
- ・ 樽前放牧場草地改良事業
- ・ 樽前交流センター管理事業
- ・ 地域資源活性化推進事業

評価指標

指 標	基準値(基準時期)	目標値(目標時期)
「特産品づくりと消費の拡大を図ること」への市民満足度(%)	65.8 (H28)	66.9 (H34)
「農業、林業、水産業を安定させ、向上を図ること」への市民満足度(%)	70.2 (H28)	74.2 (H34)
認定農業者数(農家)	26 (H28)	26 (H34)

※市民満足度とは：市民意識調査で「満足」「やや満足」「普通」と答えた人の割合



現況と課題

本市は、樽前山麓を中心に約33,300haに及ぶ広大な森林を有していますが、現在の林業を取り巻く情勢は、輸入材との競合や採算性の悪化などにより、森林所有者の経営意欲が減退し、造林を始めとする森林施業が停滞しており、非常に厳しい状況です。

しかし、森林は経済効果だけではなく、国土の保全、水資源のかん養、地球温暖化の防止、レクリエーションの場の提供など、多くの役割

を担っており、森林の育成や保全を図る必要があります。

今後、新たに造林のため植栽された森林区域の樹木も含め、維持管理が課題です。そのため、国が行う新たな施策も注視しながら、国や北海道との連携を図ることや、市民・ボランティアの協力を促し、維持管理の見直しを進めていきます。

基本目標

森林は、木材の生産だけではなく、国土の保全、水資源のかん養、地球温暖化の防止など生活環境に様々な役割を果たしています。このた

め、森林の多面的機能の維持・増大を重視した施業を推進し、森林資源の育成を図ります。

関連する個別計画

- ・苫小牧市森林整備計画

主要施策

1 公益機能を重視した森林施業の促進【都市建設部】

- (1) 周辺環境に配慮し、森林の多面的機能の維持・増大を重視した施業として、国有林や林業関係機関と連携するとともに、国・北海道より森林整備事業の補助金を受け造林等を実施します。
- (2) 台風に強い森林づくりとして、植栽本数を少なくしたり、針広混交林づくりの森林を目指した植栽を検討していきます。また、売払い時期を迎え伐採した市有林の計画的更新を図るべく、森林の造林・育林を進めます。

2 林業経営の指導【都市建設部】

- (1) 国や北海道の補助金を活用し、林業事業体の経営コストの低減や作業の効率化を支援するとともに関係機関と連携を図りながら、安定した森林施業を共同実施します。また、森林所有者の経営意欲が向上するよう総合的な指導を行います。

3 森林の保護【都市建設部】

- (1) 林野火災等から森林を守るため、国・北海道・近隣市町村・協力団体等と連携し、森林所有者や森林利用者の防災意識の向上を図るとともに指導啓発を行っていきます。
- (2) 森林における台風・林野火災等の災害被害に備えるため、森林保険に加入するとともに、病虫害獣害から森林を守ります。
- (3) エゾシカによる森林被害に備え、予防・対策について情報収集に努めます。

主な事業

- 【都市建設部】
・森林整備事業

評価指標

指 標	基準値(基準時期)	目標値(目標時期)
森林整備面積(美沢市有林)(ha)	53 (H29)	67 (H34)



基本策 10 水産業の振興

現況と課題

本市の漁業経営を取り巻く環境は、新規就業者の確保により、若年層の割合が増加傾向にあります。漁業経営安定化の基幹漁業であるほっき貝桁網漁業は適正な資源管理を実施し、「苫小牧産ほっき貝」のブランド化を推進していくとともに前浜の資源づくりのために事業を継続していく必要があります。

基本目標

水産資源の保護に向けた取組を進め、生産基盤の整備や栽培漁業を推進します。

主要施策

1 資源の保護と増加【産業経済部】

- (1) マツカワの種苗放流事業やししゃも及びさけ・ますのふ化放流事業を支援するとともに、資源の安定に向け、試験研究機関などが実施する調査・研究を支援します。
- (2) 市の貝であり、地域団体商標登録されている「苫小牧産ほっき貝」の資源管理を促進し、ブランド化を推進します。

2 漁業経営安定化の確立【産業経済部】

- (1) 漁業生産力の増大や漁業経営の安定・向上に資するために必要な支援を行います。



主な事業

【産業経済部】

- ・ 胆振管内ししゃも漁業振興協議会負担金
- ・ 北海道さけ・ます増殖事業協会負担金
- ・ 苫小牧産ほっき貝ブランド化推進事業
- ・ 胆振太平洋海域漁業振興協議会負担金
- ・ 胆振管内さけ・ます増殖事業協会負担金
- ・ マツカワ種苗放流事業
- ・ 北海道栽培漁業振興公社負担金
- ・ 漁業近代化資金利子補給金

評価指標

指 標	基準値(基準時期)	目標値(目標時期)
「農業、林業、水産業を安定させ、向上を図ること」への市民満足度(%)	70.2 (H28)	74.2 (H34)
漁業協同組合員数(人)	133 (H28)	維持 (H34)
漁業算出額(百万円)	2,117 (H28)	維持 (H34)

※市民満足度とは：市民意識調査で「満足」「やや満足」「普通」と答えた人の割合



現況と課題

本市は、苫小牧港と新千歳空港を有する優れた交通アクセスや広大な用地を背景に、多種多様な産業が集積する産業拠点都市として発展してきました。また、社会経済情勢の変化により、企業の技術力の向上・高度化、研究開発による新技術・新産業の創出が、より一層重要となっています。

こうした中、苫小牧市テクノセンター(以下「テクノセンター」という。)を中心として、企

業が有する生産技術の高度化や人材の育成、取引の拡大などを支援するため、(公財)道央産業振興財団や苫小牧工業高等専門学校などと連携し、産学官による共同研究や技術研修会などを行っています。

また、東日本大震災以降、国のエネルギー政策の見直し等により、新エネルギーの利活用が課題となっています。

基本目標

テクノセンターの機能充実を図るとともに、関係機関との連携をより一層強化し、企業の技術力向上や高度化を支援します。

地球環境問題への対応や、国のエネルギー政

策の見直し等に対応するため、太陽光・風力などの新エネルギーや地産エネルギーである天然ガスの導入を進めます。

関連する個別計画

- ・ 苫小牧市中小企業振興計画
- ・ 苫小牧市地域新エネルギービジョン

主要施策

1 中小企業の振興と技術支援【産業経済部】

- (1) テクノセンターを中心に(公財)道央産業振興財団と連携し、企業間の交流や技術研修を促進します。さらに、苫小牧工業高等専門学校や研究機関などに金融機関を加えた産学官金による連携体制を強化することにより、中小企業の技術力の向上・高度化を目指します。
- (2) 施設の新増設や機械等設備の導入に向けた融資制度により、中小企業の事業活動を支援し、経営の安定を図ります。
- (3) 工事の発注、物品及び役務の調達等における地元・中小企業の優先活用や、受注機会の増大に努めます。
- (4) 「苫小牧市中小企業振興条例」に基づき、中小企業者、経済団体等と連携・協力し、中小企業の振興を図ります。

2 新エネルギー導入の推進【産業経済部】

- (1) 本市が設置・運営する公共施設への新エネルギー導入を促進するとともに、新エネルギーについての情報提供により、市民、事業者への導入促進を図ります。

主な事業

【産業経済部】

- ・ 中小企業人材育成補助金
- ・ 産学官連携共同研究事業
- ・ 苫小牧ゾーン高度技術産業集積活性化事業
- ・ テクノセンター機器整備事業

評価指標

指 標	基準値(基準時期)	目標値(目標時期)
「中小企業の振興を図ること」への市民満足度(%)	62.6 (H28)	67.5 (H34)
産学官連携共同研究件数(件)	3 (H28)	維持 (H34)
技術講習会回数(回)	14 (H28)	維持 (H34)
技術相談・指導回数(回)	81 (H28)	85 (H34)

※市民満足度とは：市民意識調査で「満足」「やや満足」「普通」と答えた人の割合



基本策 12 商業の振興

現況と課題

ロードサイド型(幹線道路など通行量の多い道路に面して設置されていること)の大型商業施設の郊外立地やライフスタイルの変化を背景とする消費者ニーズの多様化、価値観の変化など、地域経済の商業環境が大きく変動しており、中小商業者に大きな影響を与えています。高度情報化社会の急速な発展や経済のグローバル化など、社会経済状況が変化する中、地域の中小商業者の活力向上が強く求められています。本市では、商店街が地域コミュニティの担い

手として、市民生活に重要な役割を果たしていることに鑑み、平成24年(2012年)9月「苫小牧市商店街の活性化に関する条例」を施行し、平成25年(2013年)4月には、地域全体で中小企業の振興を推進する「苫小牧市中小企業振興条例」を施行しました。

今後も、商店街の活性化及び中小企業の振興を図ることにより、市民生活の向上につなげていく必要があります。

基本目標

商業の振興を図るため、中小商業経営基盤の強化及び経営の安定を促進し、市民の多様なニーズに対応した魅力ある商店街づくりを進めます。

また、本市の産業及び地域経済の発展のため、市内事業所の9割を占める中小企業の振興を推進します。

関連する個別計画

- ・ 苫小牧市中小企業振興計画

主要施策

1 中小商業経営の安定と強化【産業経済部】

- (1) 中小商業経営の相談機能の充実を図るとともに、次の世代を担う新たな経営者の育成を支援します。
- (2) 公的融資制度の充実と活用により資金の円滑化を図り、中小商業経営をサポートします。
- (3) 中小企業振興条例の理念を普及・啓発するとともに、本条例に基づく振興施策を総合かつ効果的に実施するため、「苫小牧市中小企業振興計画」を策定し、計画的に推進していきます。

2 中心商店街と地域商店街の活性化【産業経済部】

- (1) まちの顔である中心商店街の活力を高めるため、新規出店の後押しや創業支援、イベントの支援など、にぎわいのあるまちづくりを進めます。
- (2) 地域に根ざした元気のある商店街づくりを進めるため、魅力の向上や集客力の強化などを図る各種活性化事業を支援します。
- (3) 「苫小牧市商店街の活性化に関する条例」に基づき、各主体が役割を認識するとともに、商店会が行う組織強化に向けた取組を支援します。

(4) 商業環境を把握するための各種調査の実施及び情報提供に努めるとともに、商業者向けセミナーや講習会等を実施します。

主な事業

【産業経済部】

- ・ 中小企業融資制度
- ・ 信用保証料補給事業
- ・ 中小企業振興事業
- ・ 中心商店街活性化事業
- ・ 商店街活性化事業

【産業経済部・総合政策部】

- ・ 地方創生地域コミュニティ活性化支援事業

評価指標

指 標	基準値(基準時期)	目標値(目標時期)
「中小企業の振興を図ること」への市民満足度(%)	62.6 (H28)	67.5 (H34)
商店街振興策利用数(件)	30 (H28)	40 (H34)
新規創業セミナー受講者数(人)	46 (H28)	60 (H34)

※市民満足度とは：市民意識調査で「満足」「やや満足」「普通」と答えた人の割合



13 企業立地の促進

現況と課題

北海道の物流の要衝である本市には、ものづくり産業を始めとする多様な産業が集積し、地域の経済や雇用の基盤となっています。

より強固な産業構造基盤を確立するため、地域の特性をいかし、企業やプロジェクトの誘致

活動、立地企業の更なる発展への支援、社会情勢に対応した新たな産業の創出などに取り組む必要があります。

基本目標

紙パルプ・石油精製・自動車関連など、ものづくり産業の更なる集積を図るとともに、新たな産業や成長が見込まれる産業の展開を進め、雇用の創出・確保や地域経済の活性化につなげます。

また、企業や働く方々が快適に活動できる環境を整え、立地企業の更なる発展を支援します。

主要施策

1 企業誘致と産業基盤の整備【産業経済部】

- (1) 国際拠点港湾を有する物流拠点としての優位性に加え、快適な生活環境やまちの魅力、地域資源の利活用等に関する情報の発信力を高め、周辺自治体等とも連携を図りながら、積極的な企業訪問や企業誘致フェアへの出展によるPRを行い、効果的な企業誘致の取組を推進します。
- (2) 今後、成長が見込まれる農水産品などの付加価値を高める加工や物流関連企業の誘致、将来の新たな産業として期待される水素エネルギーや自動走行関連等の実証施設や研究機関の誘致を進め、関連する企業の立地を促進します。
- (3) 企業誘致の促進や立地企業の更なる発展のため、基幹道路などのインフラ設備や企業で働く方々の生活環境の整備を進め、工業都市としての機能強化を推進します。

2 立地企業への支援【産業経済部】

- (1) 立地企業の更なる発展のため、企業が快適に活動できる環境の整備や良好な雇用の確保等への支援を行い、安定的な企業活動をサポートします。
- (2) 「苫小牧市企業立地振興条例」に基づく事業場の新增設に対する優遇措置等により、企業活動を支援します。また、助成内容についても、企業のニーズや社会情勢を勘案し、より活用しやすい制度づくりを目指します。



主な事業

【産業経済部】

- ・苫小牧水素エネルギープロジェクト事業
- ・苫小牧CCS促進協議会
- ・企業立地振興条例助成事業

評価指標

指 標	基準値(基準時期)	目標値(目標時期)
「工業地域の開発と企業の誘致を進めること」への市民満足度(%)	70.9 (H28)	75.0 (H34)
工業団地内の土地を購入した企業数(累計)(社)	802 (H28)	815 (H34)

※市民満足度とは：市民意識調査で「満足」「やや満足」「普通」と答えた人の割合



現況と課題

支笏洞爺国立公園を背景に、樽前山、ウトナイ湖など豊かな自然に囲まれた本市は、陸路・空路・海路の交通アクセスに恵まれ、多くの人が行き交うまちとなっています。

国や北海道では、観光を21世紀における日本の重要な柱として位置付け、少子高齢社会と本格的な国際交流の進展を視野に観光立国の実現に向けた取組を加速しています。

今後の課題としては、豊かな自然と食を始め、産業やスポーツなどの地域の魅力をいかし、観光事業者、観光団体、経済団体、行政機関などの地域が一体となり、観光誘客に努めることで、観光関連産業の振興を図る必要があります。

基本目標

豊富な観光資源を有効活用し、地域の特性をまちの魅力として、積極的な情報発信に努めることで、交流人口の増加によるにぎわい創出と地域経済の活性化を目指します。

関連する個別計画

- ・ 苫小牧市観光振興ビジョン

主要施策

1 地域の魅力の有効活用【産業経済部】

- (1) 食や自然、産業、文化、スポーツ及び各種施設などの観光資源をいかし、国内外からの観光誘客を図ります。
- (2) 道の駅ウトナイ湖は、豊かな自然が満喫できる最高のロケーションとなっていることから、ラムサール条約の登録湿地であるウトナイ湖をPRするとともに、各種イベントを開催するなど、集客を図ります。

2 観光推進体制の強化【産業経済部】

- (1) 観光協会の事業の拡大や体制強化の支援を行います。
- (2) 観光案内所の機能強化を図るとともに、観光入込が市内で最も多い道の駅ウトナイ湖に観光案内所を開設し、他施設への誘客を図ります。
- (3) ビジット苫小牧観光会議等と連携し、地域一体の観光まちづくりを進めます。

3 新たな魅力づくり【産業経済部】

- (1) 市民、観光客が共に楽しめる魅力あるまつり、各種イベントの開催により、市外からの観光客の誘致を図るとともに、多くの市民や各種団体と協働で地域のにぎわい創出や活性化を図ります。

- (2) クルーズ船の寄港は、乗船客による観光消費や関連産業への経済効果が期待でき、苫小牧の魅力や知名度の向上にも寄与することから、官民一体となった歓迎体制を構築します。
- (3) フィルムコミッション事業は、テレビ番組やCM、映画の撮影を通し、苫小牧を広くPRするため、映像製作者への各種支援を行います。
- (4) 急増するインバウンド、特にアジア圏からの訪日観光客に対応するため、受入環境の整備を進めるとともに、地域資源を活用した幅広い連携による誘客を図ります。

主な事業

【産業経済部】

- ・ピジット苫小牧観光会議事業
- ・苫小牧市大会等誘致推進協議会支援事業
- ・苫小牧クルーズ振興協議会支援事業
- ・とまこまいフィルムコミッション事業

評価指標

指 標	基準値(基準時期)	目標値(目標時期)
「観光地のPRや魅力あるイベントを充実させること」への市民満足度(%)	61.1 (H28)	65.0 (H34)
苫小牧市観光入込客数(万人)	193 (H28)	260 (H34)
観光案内所利用状況(件)	19,061 (H28)	25,000 (H34)
各種イベント観客動員数(万人)	54 (H28)	55 (H34)

※市民満足度とは：市民意識調査で「満足」「やや満足」「普通」と答えた人の割合



15 雇用・労働環境の整備・充実

現況と課題

少子高齢化が進む中、生産年齢人口の減少や雇用のミスマッチ、若者の職場定着率の低さなど様々な要因による人手不足は、本市においても大きな課題となっています。新たな人材の確保を目指す企業の取組を支援するとともに、若者、女性、高齢者、障がい者など、多様な人材の就業促進を図る必要があります。

また、若者の職業的自立の支援、季節労働者の通年雇用化促進などのため、関係機関との連

携をより一層強化することが重要です。

産業の振興は雇用創出の面からも極めて重要であり、企業ニーズに対応した人材を育成するため、職業能力開発の強化が必要です。

さらに、単独で福利厚生制度を持つことの難しい中小企業の多い本市において、勤労者への支援として、苫小牧市勤労者共済センター等により福利厚生を促進することが重要です。

基本目標

雇用の安定・拡大と地元人材の育成・確保に努めるとともに、職業能力開発体制の強化と勤労者福祉の充実を図ります。

主要施策

1 雇用の安定・拡大と人材の確保・育成【産業経済部】

- (1) 人材育成や離職防止等の取組を一層強化し、人手不足分野への入職者増加や職場定着率の向上を図ることで、若者の地元就職を促進するとともに、労働力の確保に努めます。
- (2) 若者、女性、高齢者、障がい者の就労機会の拡大と雇用の安定に努めるとともに、誰もが生き生きと働けるよう労働環境の改善を図ります。
- (3) 産業の振興や企業誘致を図り、雇用の場の確保と拡充に努めます。
- (4) 季節労働者の通年雇用化の促進を図ります。
- (5) とまごまい若者サポートステーションなど関係機関と連携し、若者の職業的自立の支援に努めます。

2 職業能力開発体制の強化【産業経済部】

- (1) 苫小牧地域職業訓練センターの利用促進を図り、技能者の養成と再就職を目指す方の能力開発を進めます。
- (2) 北海道立苫小牧高等技術専門学院と連携し、職業能力開発の支援に努めます。
- (3) 技能士重用制度の充実に努め、技能労働者の社会的地位及び技能水準の向上を図ります。

3 勤労者福祉の拡充【産業経済部】

- (1) 勤労者福祉の向上を図るため、勤労者貸付金制度と苫小牧市勤労者共済センターを通じた共済制度の充実に努めます。

4 U・I・Jターンの促進【産業経済部】

- (1) 新たな人材を求める企業とU・I・Jターン希望者のマッチングを図り、市内企業の人材確保を支援します。



主な事業

【産業経済部】

- ・ 就業支援事業
- ・ 苫小牧市障害者雇用奨励金事業
- ・ 地域職業訓練センター補助金
- ・ 苫小牧市勤労者共済センター補助事業

評価指標

指 標	基準値(基準時期)	目標値(目標時期)
「生き生きと働くことができる場があること」への市民満足度(%)	58.4 (H28)	63.5 (H34)
地域職業訓練センターの利用人数(人)	30,500 (H28)	32,000 (H34)
勤労者共済センターの加入事業所数(事業所)	520 (H28)	維持 (H34)

※市民満足度とは：市民意識調査で「満足」「やや満足」「普通」と答えた人の割合



現況と課題

新千歳空港は、苫小牧市と千歳市にまたがり、3,000mの並行滑走路2本を有する道内最大規模の空港であり、我が国で初めて飛行機の離発着が24時間可能となった空港です。

欧米とアジアを結ぶ航空ルートを中心に位置する優位性をいかし、北の国際航空ネットワークの拠点空港化を目指すとともに、国際線旅客ターミナルビルの供用開始による利便性の向上

や外国人旅行客の増加により、平成28年(2016年)には、国際線利用者数が250万人を超え過去最高を記録しました。

このような中、格安航空会社(LCC)や国際線の相次ぐ就航に加え、24時間運用拡大や国が進める空港経営改革など、航空情勢の大きな変化に対応して地域経済の発展に取り組む必要があります。

基本目標

新千歳空港の国内・国際航空輸送ネットワークの拠点となりうる国際競争力の確保・向上、安全・安心対策の継続的な実施のほか、空港周辺環境対策として「植苗・美沢地区土地利用計

画」に基づく事業化の促進と、在日米軍再編に伴う安全対策や地域の活性化を推進します。

関連する個別計画

- ・ 苫小牧市植苗・美沢地区土地利用計画

主要施策

1 新千歳空港の国内、国際航空輸送ネットワークの拠点形成【総合政策部】

- (1) 新千歳空港の国内・国際航空輸送ネットワークの拠点となりうる国際競争力の確保・向上、安全・安心対策の継続的な実施のほか、空港周辺環境対策を推進します。

2 新千歳空港の利用促進【総合政策部】

- (1) 利用者のサービスの改善を図るため空港機能を充実し、空港運用の高度化を図ります。

3 在日米軍再編に伴う安全確保と地域の活性化【総合政策部】

- (1) 在日米軍再編に伴う協定の遵守を強く求めるとともに、地域の安全確保や活性化に向けた事業要望を行います。

4 植苗・美沢地区土地利用計画の事業化の促進【総合政策部】

- (1) 平成23年度(2011年度)に見直された「苫小牧市植苗・美沢地区土地利用計画」の推進については、新千歳空港24時間運用拡大や在日米軍再編関連訓練移転等交付金に伴う地域振興策の事業化に向けた取組を進めます。
- (2) 北海道の「北東アジア・ターミナル構想」に基づく空港周辺地区について、開発と保全の調和がとれた土地利用を図ります。

5 国際観光リゾートの形成【総合政策部】

- (1) 苫小牧市植苗地区の民有林を活用した新たな観光資源の創生及び空港周辺地域の活性化として、民間企業による森林体験施設、滞在施設、森林療法施設等の整備を促進するとともに、国内外からの良好なアクセス性、道内周遊拠点となりうる交通要衝としての優位性、近隣に点在する豊富な観光資源などの地域資源をいかし、国際観光リゾートの形成を目指します。

主な事業

【総合政策部】

- ・ 苫小牧市航空機騒音対策協議会
- ・ 新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会
- ・ 新千歳空港建設促進期成会負担金外
- ・ 植苗美沢地区地域情報通信基盤設備事業
- ・ テレビ共同受信施設整備事業
- ・ 新千歳空港周辺環境整備財団補助金
- ・ 新千歳空港整備事業負担金
- ・ 再編関連訓練移転等交付金

評価指標

指 標	基準値(基準時期)	目標値(目標時期)
新千歳空港の年間利用者数(千人)	21,553 (H28)	24,000 (H34)
新千歳空港の年間貨物取扱量(トン)	204,692 (H28)	210,000 (H34)

17 港湾整備とポートセールスの推進

現況と課題

苫小牧港は国内外に週100便を超える定期船が就航し、北海道の港湾貨物の約半数を取り扱い、北日本最大の海上輸送の拠点として、本市はもとより北海道経済をけん引する重要な役割を果たしています。西港区は全国各地とRORO船(トレーラーなど、車両を収納する甲板を持つ船。車両は自走で搭載/揚陸できる。)やフェリーによる国内定期航路ネットワークが形成され、東港区は北海道の外貿コンテナ貨物

の約7割を取り扱い、北米や東アジアを中心とした海外との輸出入の拠点としての機能を担っています。今後、競争力を高め、我が国の海上物流の拠点として成長するためにも、更なる港湾機能の強化や大規模災害時における物流機能の確保が重要となっています。また、港のにぎわい創出を図るため、多くの市民や観光客が親しみ・ふれあえる港づくりを進める必要があります。

基本目標

国内外の物流動向など港湾を取り巻く環境の変化に対応した港湾機能の強化に加え、積極的なポートセールスに取り組むなど、更なる港勢拡大に向けた活動を推進するとともに、港の魅

力を多くの方々に発信しにぎわい創出を図り、次なる成長、発展に向けた港づくりを進めます。

主要施策

1 港湾機能の強化【産業経済部】

- (1) 西港区ではRORO船荷役の安全性向上や物流の効率化を図るため、複合一貫輸送ターミナルの整備を促進するとともに、東港区では国際海上輸送網の拠点として、国際コンテナターミナルの機能強化を図ります。
- (2) 東西両港区の安全な道路交通の確保と円滑な貨物輸送を行うための整備を進めます。

2 安全・安心を支える港づくり【産業経済部】

- (1) 大規模災害時において、市民の安全で安心な暮らしを守るとともに、港湾の機能不全による北海道経済への影響を最小限に抑えるため、老朽化による機能低下が懸念される防波堤や岸壁の改良を促進します。

3 親しまれる港づくり【産業経済部】

- (1) 西港区フェリーターミナルやキラキラ公園、漁港区周辺など、観光資源としての港の魅力を多くの市民や観光客の方々に知っていただく取組を積極的に進め、更なるにぎわい創出を図り、親しまれる港づくりを促進します。

4 ポートセールスの推進【産業経済部】

- (1) 苫小牧港の更なる港勢拡大のため、国内外の船社等への積極的なポートセールスに取り組むとともに、苫小牧港の地理的優位性をいかした、アジアと欧州間の最短航路となる北極海航路の苫小牧港の活用に向けた取組を推進します。

主な事業

【産業経済部】

- ・ 苫小牧港管理組合負担金
- ・ 苫小牧港PR促進事業

評価指標

指 標	基準値(基準時期)	目標値(目標時期)
「苫小牧港(西・東)の機能を充実させること」への市民満足度 ※1 (%)	72.0 (H28)	77.0 (H34)
外国貿易取扱貨物量(千トン)	17,000 (H28)	22,200 (H30 代前半) ※2
内国貿易取扱貨物量(千トン)	88,600 (H28)	89,600 (H30 代前半) ※2
取扱貨物量(合計)(千トン)	105,600 (H28)	111,800 (H30 代前半) ※2
外国貿易コンテナ取扱個数(TEU)	201,300 (H28)	300,000 (H30 代前半) ※2

※1 市民満足度とは：市民意識調査で「満足」「やや満足」「普通」と答えた人の割合

※2 苫小牧港港湾計画における目標時期、目標値に基づきます。



18 苫東開発の推進

現況と課題

苫小牧東部地域の開発は、我が国の発展に重要な役割を担う国家的プロジェクトであり、また、北海道の産業構造の高度化を促進する先導的開発事業として、国が策定した「苫小牧東部開発新計画」及びその段階計画によって、国土交通省北海道局、北海道、苫小牧市、日本政策投資銀行、株式会社苫東の5者による推進体制のもと、それぞれの役割分担の中で開発推進

に取り組んでいます。当地域では近年、物流、エネルギー、食関連企業の進出など多種多様な産業の集積が進んでいますが、更なる企業誘致に結びつけるためにも、地域特性をいかした新たな産業の展開や開発の核となるプロジェクトの導入に向け、関係機関と緊密に連携して取り組んでいく必要があります。

基本目標

苫東開発の基軸である企業誘致に戦略的に取り組むほか、地域特性をいかした新たな産業や開発の核となるプロジェクトの展開を推進し、

更なる産業の集積を図るとともに、豊かな自然と調和した苫東地域を目指します。

主要施策

1 苫東開発の推進【産業経済部】

- (1) 自動車関連産業を始めとする既存立地分野の一層の集積を促進するとともに、地域の特性をいかした新たな産業や今後発展が見込まれる産業等の展開、開発の核となる公的プロジェクトの導入を推進します。
- (2) 大規模実証フィールドとしての優位性や自動車関連の製造拠点が集積する強みをいかした特色ある研究開発基盤の形成を図り、技術・研究開発拠点や関連する企業の立地につなげます。
- (3) 北海道に設置を要望している（仮称）苫東地域産業技術総合支援センターについて、設置促進に努めます。
- (4) 港湾などの物流機能をいかして北海道産の一次産品などの付加価値を高めるため、食糧流通備蓄施設の立地を推進します。
- (5) 陸・海・空の物流機能向上のため、関係機関と連携し、基盤整備を進めます。
- (6) 良好な環境の保全に努めるとともに、豊かな自然と産業活動の調和を図り、地域社会との共生に向けた取組を進めます。

主な事業

【産業経済部】

- ・ 既存立地産業の集積促進
- ・ 苫東地区基盤整備の促進
- ・ 研究開発基盤の形成促進

評価指標

指 標	基準値(基準時期)	目標値(目標時期)
「工業地域の開発と企業の誘致を進めること」への市民満足度(%)	70.3 (H28)	75.0 (H34)
苫小牧市東部の製造品出荷額等(億円)	683 (H26)	893 (H34)

※市民満足度とは：市民意識調査で「満足」「やや満足」「普通」と答えた人の割合



